

QuantiFERON® TB ゴールド プラス (QFT-Plus) 使用時の注意 チェックリスト

培 養 時

QFT 検査実施の際には、下記の点に特にご注意ください。

■ ヘパリンリチウムもしくはヘパリンナトリウム真空採血管 1 本で 受け取った場合

チェック項目	チェック欄
1. 採血後のヘパリンリチウムもしくはヘパリンナトリウム真空採血管が、採血後 3 時間以内に 2~8°C で冷蔵保存されていることを確認する。	<input type="checkbox"/>
2. 採血後のヘパリンリチウムもしくはヘパリンナトリウム真空採血管が 2~8°C で冷蔵保存されてから 48 時間以内であることを確認する。	<input type="checkbox"/>
3. QuantiFERON TB ゴールド プラス チューブ (QFT プラスチューブ) に分注する時は、冷蔵していたヘパリンリチウムもしくはヘパリンナトリウム真空採血管を室温 (22 ±5°C) に戻す (注 1)。	<input type="checkbox"/>
4. QFT プラスチューブに血液を分注する前にヘパリンリチウムもしくはヘパリンナトリウム真空採血管を十分転倒混和する。	<input type="checkbox"/>
5. ヘパリンリチウムもしくはヘパリンナトリウム真空採血管に採取された血液を、QFT プラスチューブそれぞれに 1 mL ずつ分注する (注 2)。	<input type="checkbox"/>
6. 血液検体を QFT プラスチューブに分注する際に、QFT プラスチューブのゴム栓を外した場合は、元と同じゴム栓を QFT プラスチューブに再装着する。	<input type="checkbox"/>
7. 冷蔵保存から取り出したヘパリンリチウムもしくはヘパリンナトリウム真空採血管の血液検体は、室温で取り扱い、QFT プラスチューブへの分注および培養開始までを 2 時間以内に行う。	<input type="checkbox"/>

注 1： US 版添付文書 21 ページ目に記載。

注 2： クリーンベンチ等の清浄な環境下での作業を推奨。

分注に使用する器具も滅菌ピペット、ディスポーザブルチップ等を使用したオートピペット等、無菌的に分注できる器具を推奨。

■ QFT プラスチューブ 4本で受け取った場合

チェック項目	チェック欄
1. 血液検体が培養前か培養後かを確認する（注 1）。	<input type="checkbox"/>
培養前の場合	
2. 血液検体が 22 ±5℃で保存されており、採血後 16 時間以内であることを確認する。	<input type="checkbox"/>
3. 培養直前に再度QFT プラスチューブを上下に 5 秒間又は 10 回振る。	<input type="checkbox"/>
4. 採血後出来るだけ早く（採血後 16 時間以内に）37℃のインキュベーターに入れる。	<input type="checkbox"/>
培養後の場合	
《遠心分離前》	
5. 血液検体が 4～27℃で保存されており、培養後 3 日以内であることを確認する。	<input type="checkbox"/>
6. QFT プラスチューブをRCF2,000～3,000（×g）で 15 分間遠心分離する。	<input type="checkbox"/>
《遠心分離後》	
7. 検体が 2～8℃で保存されており、遠心分離後 28 日以内であることを確認する。	<input type="checkbox"/>

注 1： 培養後のものを受け取った場合は再度培養しないように注意が必要。